

ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり



栃木市

教育委員会だより

絆

発行責任者：栃木市教育委員会

委員長 後藤 正人

住所：栃木市万町 9-25

電話：0282-21-2461

FAX：0282-21-2689

Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp



天使

委員長 後藤 正人

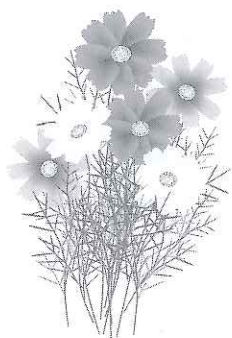
高熱が続いた影響で久しぶりの入院生活を体験した。生活が長引くうちに他の患者さんの様子から様々な人生の縮図を感じたり、自分のこれまでの生活を振り返り、今後の生き方を思索したり、健康の尊さ・素晴らしさを痛感したりした。ともあれ、昼夜24時間患者のために動き回っている看護師さんが天使に見えた。

以前、地方でひっそりと歌われていた「孫」のヒットにワクワクしたことを思い出す。当時2歳になったばかりの孫の様子に感動し、驚き、その不可解な行動にまごまごしたものである。日曜日に近くの緑地公園で遊ばせようと連れて行くと、途中で、小さな手に握りやすい鉄砲型の桜の枯れ枝を見事に見つける。いつの頃か鉄砲型の小枝集めが好きになり、私の書斎は孫のお気に入りの鉄砲でいっぱい。この鉄砲で何度撃たれたことか。「笑わないで、ちゃんと倒れて！」と厳しい演技指導まで受ける始末。どろんこ遊びをして手足が汚れると、決まってジージの私を誘う。父母だと「メッ！」をされるが、ジージだと水遊びのおまけが保証されることを知っているから。しかし、お風呂は父親を誘う。洗うのは雑だが、お風呂の中で面白い遊びが存分にできるから。トイレに行く時は、バーバの

手を引く。母親だとせっかくだとトイレに入っても出なかつたらお説教される苦い体験をしてるから。バーバだとトイレを知らせてただけで褒められる。そして、いよいよ寝る時を迎える。一年365日無条件に優しいジージやバーバの前を通り過ぎ、本当に安心できる、こわいけど優しい母親の胸元に飛び込んでいく。母親の温もりの中で眠りの世界に入り、何ともいとおしい天使に変わる。

この頃の幼児は、無意識の中で自分のめあてを実現するために周りの人や環境をうまく使い分ける素晴らしい感性と能力を秘めている。子どもの健やかな成長は、その時々身近にいる大人がどう語り掛け・どうかかわっていくかで違いが出てくる。その際に生まれる対話（コミュニケーション）によって、子どもは対人関係の距離感を自然体で体得し、子どもの気持ちは「癒やされ」「安心」でき、周りの大人からの愛情を素直に感受するのでしょう。孫を見る目で周りの子どもたちと接していると今まで見えなかった大切なものまで、見えてくるような気がする。

当たり前の生活に感謝をし、「凡事徹底」を文句も言わずに日々実行している我が家族こそ、本当の天使だということに強く気付かされた入院生活であった。笑いながら、ちゃんと倒れる（死ぬ）までは、まだ時間がある。身近な天使に恥じない生き方をしていきたいと思つた。



教育委員会って何？



教育委員会ってどんなしくみなの？

Q 教育委員会って何？

A 教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育行政の政治的中立性と安定性、継続性を図るため、地方公共団体の長（市長）から独立して設置されています。

Q 教育委員会はどんな構成なの？

A 教育委員会は、市長が市議会の同意を得て任命する委員で構成されており、委員の任期は4年です。今年度、市議会5月臨時議会で同意を得て、後藤正人委員、赤堀明弘委員が再任され、林慶仁委員が新たに選任されました。岩舟町との合併により委員は7名となりました。

平成26年度栃木市教育委員会の組織

教育委員会

林慶仁委員	荒川律委員	福島鉄典委員	後藤正人委員長	筑比地幸子委員長 職務代理者	若林由美子委員	赤堀明弘教育長
-------	-------	--------	---------	-------------------	---------	---------

教育委員会事務局

教育総務課
 学校教育課
 生涯学習課
 スポーツ振興課
 文化課
 伝建推進室
 大平・藤岡・都賀・西方・岩舟教育支所

☆委員長は、教育委員会の会議を主宰し、教育委員会を代表します。

☆教育長は、教育委員会の指揮監督の下に、事務局の事務を統括します。

新たに教育委員に選任された林慶仁委員からのメッセージ



林慶仁委員

この時期、この土地に広がる水田をよく目にします。岩舟・小野寺で生まれ育った私には、心の原風景です。そしてこの景観は、千数百年ものあいだ変わっていません。地味だけれど辛抱強く、義理を重んじ、他人に優しいご先祖たちも、千数百年この米を食べてまいりました。そして平成の今、栃木米によって生きる子どもたちが、どのように心身を成長させるのか、大人たちが文化の華をどう保持、開花させていくのか、新参者としてご迷惑のかからないように微力を捧げたいと存じます。(5月就任時の言葉より)

とびくす (教育委員会制度に関する法改正について)

平成27年4月から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部を改正する法律が施行されることとなりました。委員長と教育長を一本化した新たな責任者である新教育長を置き、首長（市長）が議会の同意を得て、直接任命・罷免を行うこととなります。

また、首長は総合教育会議を設け、この会議において、教育委員会と協議し、教育に関する施策の大綱を策定することになります。

教科書の採択や、学校教育課程の編成及び個別の教職員人事などの教育委員会の職務権限は、従来のとおりとなります。

※教育委員会制度の移り変わりにつきましては今後もこの「教育委員会だより」でお知らせしていきます。

教育委員の声！！

教育委員の活動は、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な教育委員会の事務事業の点検評価や学校訪問など多岐にわたっています。ここでは、教育委員の“生の声”をご紹介します。



筑比地幸子委員

今年度も昨年度に引き続き学校訪問をさせていただいています。委員になる前は、学校はどこも同じようなカリキュラムだろうと思っていましたが、先生方はあらゆる面で工夫を凝らし、各々の学校規模や地域性に合った内容にするべく、研究・実践していらっしゃいます。それを直接見聞きできることは興味深く大きな楽しみでもあります。そして、そこで会う子どもたちの明るい笑顔、はにかんだ笑顔…様々ですが、私に「元気」をプレゼントしてくれます。私たち大人は、栃木の未来を担うこの笑顔を守り育てるために、学びの基礎となる家庭教育力に学校の力と地域力も加え、何をどのようにすればよいか模索・実行することを忘れてはいけないといつも感じさせられます。

この立場になって、子どもたちの「いい表情」に出会う機会が多い。音楽祭や陸上交歓会、学校祭や運動会はもとより、普段の授業や給食の時間まで、私たちは子どもたちの表情に癒やされ、元気をもらう。だが、本当はこの子たちの保護者にこそ、いつもとは違う姿をたくさん見せてあげたいと思う。彼らは、小さなしあわせを励みに毎日を精一杯生きているのだから。最近夫婦で学校行事に参加している保護者も増えているし、大平地区の4つの小学校では、「おやじの会」が立ち上がることも聞く。「うん、いいじゃないか。」



福島鉄典委員



若林由美子委員

去る、2月8日に寺尾中央小学校の閉校式、3月2日には寺尾南小学校の閉校式、そして4月8日には寺尾小学校の開校宣言式に立ち会う機会をいただき、出席させていただきました。いずれの閉校式も、在校生、卒業生、そして地元地域の方々の思いが伝わり、歴史ある学校を閉校しなければならないさびしさとせつなさが感じられました。児童たちは、今までの感謝を込めての発表や、歌や合奏で気持ちを表していました。新しい歴史の始まりのための終わりと思ってみても皆さんの気持ちを考えると「おめでとうございます」という言葉がすんなりと出てこなかったことを思い出します。

しかし、4月8日の寺尾小学校の開校宣言式では、新しい校舎に移り、気持ちも新たに、みんな生き生きとさわやかだったのも印象に残っています。新しい校歌もすばらしく、感動的でした。

二人の子どもが親元を離れて働き出してから数年が経ちました。親バカかもしれませんが、当初心配したのは学生のときに気にしていた通信簿などの成績ではなく、「社会のルールを守っているか」「他人とコミュニケーションがとれているか」など、人間としての根っこの部分でした。

ゆとり教育による学力低下が叫ばれ、全国学力学習状況調査の結果に一喜一憂している県もあると聞きます。しかし、真の学力とはどんな力なのでしょう。学問を理解することも重要ですが、「きちんと挨拶する」「公共のマナーを守る」等々、立派な人間になるために身に付けるべき力、つまり人間力が子どもたちに一番必要な学力であると私は考えています。



荒川律委員

栃木市の教育の方向

栃木市教育計画 (3)

栃木市は、豊かな自然や史跡、文化遺産を有し、著名な文化人も輩出している歴史と伝統に輝くまちです。次世代を担う子どもたちがそれらへの理解を深め「ふるさと栃木」への誇りと愛着を育むことができるよう、各学校で、「ふるさと学習」を推進しています。



大平南小による「郷土の偉人 田村律之助」の学習

「ふるさと学習」の素材は身近なところにあります。各学校ではそれらを教材化して子どもたちが「ふるさと栃木」のよさを学ぶことができるようにしています。



栃木の秋まつりの様子

教育長のひとこと

栃木市定例校長会(7月)での話から(抜粋)

今、子どもたちには、成長へのどんな「節」が形作られているのだろうか。また「本校ならでは」の「春の耕し」から「秋の実り」に向けて、教職員の皆さんには、どんな「エネルギー」がどれだけ蓄えられているのだろうか…など、各校それぞれの点検・評価と、今後への創意ある取り組みを大いに期待したい。

過日、共同訪問で「古巣」の栃木東中にお邪魔した。その日、授業、給食、清掃…と、生徒はとても落ち着いて、和やかで、しかも一人一人が目的を持って行動していて、本校の目指す生徒像「東筍の心得」が現実のものになっていると感じた。それは昔、私自身も東中生に求めながら、なかなか成しえなかった「かくあるべし」の姿であった。そして、経営方針の具体策の一つに掲げられていた〈教師力向上と学校文化の伝承〉なる言葉が、まさに実感を伴って伝わってきた。

とはいっても、教育は未来を指向する営みである。常に「これから」を見据えること。かつ「課題の分だけ、可能性が広がる」もの。特に課題が散見する「授業力」にはその向上・充実に努め、これからの可能性を更に広げてほしい…と、教職員の皆さんにお願いして、「懐かしき学舎」を後にした。

教育長 赤堀明弘

定例教育委員会は、公開を原則としており、「広報とちぎ」で、日程をお知らせしています。一度見学してみませんか。

【編集後記】

“教育委員会だより 絆”の発行により、市民の皆様には教育委員会の役割や活動内容をお知らせし、いっそうの開かれた教育委員会を目指します。

※ご意見・ご感想はこちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25 電話：0282-21-2461

FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp